

# WINDOW



高知県・全羅南道間友好交流10周年レセプションでの記念撮影

2013  
**Autumn**  
No.59

**特集**

韓国全羅南道との観光・文化交流協定締結10周年記念事業  
～2013順天湾国際庭園博覧会への出展と訪問～

- 2013年度高知県国際交流協会の事業から  
2013ジュニア国際大学  
外国人も南海地震に備えちよき♪ ～2012年度から2013年度にかけての防災事業～
- 大型外国客船を迎え入れて
- A Letter From Abroad  
福岡 千尋(イギリス在住)
- 新旧高知県国際交流員からのごあいさつ
- INFORMATION BOARD  
新しい国際交流団体のご紹介～須崎国際交流協会～  
国際ふれあい広場2013を開催します!  
異文化理解講座開催のご案内

2013

# ジュニア国際大学を開催しました

6月22日(土)、今年で8回目となるジュニア国際大学をいの町にある県立青少年の家で開催し、県内各地から集まった小学4年生から6年生までの32名が、クイズやゲーム、外国の遊びなどとおして国際理解を深めました。

午前中の曾根健介先生(「国際理解の風を創る会」所属)の授業は、昨年先生が訪問したモンゴルについての内容が中心でした。ゲルでのホームステイ中に体感した遊牧民族の生活習慣に関するクイズに、皆、興味津々の様子でした。

午後の最初の授業は、外国の遊びを県内在住外国人と一緒に遊ぶ恒例の授業です。この授業には県国際交流員2名(アメリカ、中国)とインドネシア出身の高知市国際交流員、イギリス出身の県内在住外国人、ベトナム出身の高知大学留学生の5か国の方にご協力いただき、外国語を交えながら現地の遊びを楽しみました。

最後の授業は、JICA 国際協



▲みんな積極的に手を挙げます

力推進員・山内桂さんによる異文化理解についての授業でした。在日ネパール人が体験した日本の習慣と母国の習慣についての説明が書かれたカードを日本のものと思われるものとネパールのもと思われるものに分け、その裏面に描かれた絵の一部を適当に並べると両国のある日常の姿を映し出す1枚の絵が完成するジグソーパズルに挑戦しました。最初から完璧な絵が出来上がったチームはありませんでしたが、間違えることによって自分の中に存在する思い込みや偏見に気づかされた授業だったと思います。



▲中国式ケンケンパ



▲ネパール、日本、どっちかなあ?

来年も「大学」を開校する予定ですので、外国に興味のある小学生はぜひ参加してください。

## 外国人も南海地震に備えちよき ~2012年度から2013年度にかけての防災事業~

大規模災害発生時に在住外国人を言葉の面で支援する語学ボランティアを養成する講座を2007年度から開催し、現在100名を超える方がサポーターとして登録されていますが、2012年度は被災地での活動経験のある講師を県外から初めて招聘して講座を開催しました。

講師となられた多文化共生マネージャー全国協議会の時光先生は、東日本大震災時に仙台市内に設置された多言語支援センターの運営に携わり、外国人住民への支援活動に従事された方です。「災害時ボランティアに求められる役割」というテーマで講義及び外国語演習をしていただきましたが、その内容は実践経験に基づいたもので説得力がありましたので、受講者の意識は相当高まりました。

次に今年度の新しい取組みとして、在住外国人を集めた研修会場等に出向き南海地震対策出前講座を行うことにしました。この取組みは、東日本大震災が発生した2年前から警察署の要望に応じて行っていたものを正式に事業化したものです。

4月から8月末現在の5か月間で117人の在住外国人に対して揺れや津波から生きぬくためにしなければならない重点項目について説明をしてきましたが、前述のサポーターがこの講座の通訳として活躍する場面もあります。

今年度はこの他、既存の英語・中国語パンフレットの改訂版を発行することにしていきますので、次号のこの紙面を使って報告できればと思っています。



グループによる外国語演習の様子



出前講座で通訳をするサポーター(右側)

# 大型外国客船を迎え入れて

高知県土木部港湾振興課長 玉石 宗生

高知新港は、昭和49年6月に外洋港設置の計画が港湾審議会承認されて以来、約四半世紀の歳月をかけて、平成10年3月に太平洋に面した国際貿易港として開港し、今年で15年目を迎えました。

最近の大きなトピックとしては、大型外国客船の寄港があげられます。

4月23日には、アメリカの会社が運航する「サン・プリンセス」が高知新港に初入港し、過去最大の船舶の寄港となりました。外国客船の日本への寄港は年々増加しており、一度に多くの観光客を運んでくれる新しい観光の形態として県としても誘致に力を入れているところです。

4月の寄港では、1日にシドニーを出発し、シンガポールを経由して、香港、アモイ(中国)そして高知へとやってきたということもあり、乗客のほとんどが外国人の方々であり、6月7日の2回目の寄港の際も、横浜港発着のクルーズにも関わらず、6割近くの方が外国人の方々でした。

高知新港は客船専用の岸壁がなく、貨物船用の岸壁を多目的に利用しています。そのため、行事等は仮設テントで行わざるを得ないなどの制約がありますが、そのような状況下で客船専用の岸壁を有する他の港湾に負けないためには、地元の歓迎が重要となります。

この4月の寄港では、岸壁では、初入港を記念した歓迎セレモニー、「りょうまくん」「カツオ人間」の着ぐるみによるお出迎え、県産品や切手の販売

や観光案内所の設置、無料シャトルバスの運行、両替サービス、新聞バッグづくりの体験コーナー、土佐茶のふるまい、土佐おもてなし勤王党によるパフォーマンス、よさこいの演舞や中高生のマーチングバンドの演奏、遊覧船による出港時のお見送りなどを行いました。また、中心市街地では、商店街やバスターミナルなどにおいて、臨時的観光案内所の設置や、抹茶や饅頭の振る舞い、高校生による案内・誘導などを行うとともに、高知城や桂浜などの観光地での観光案内も行いました。

いずれも好評で都会では感じられない「おもてなし」の心を感じたとの感想を乗客の方々からいただきました。

外国人の方々をお迎えするにあたっては、県国際交流協会や高知SGG善意通訳クラブを含めた通訳ボランティアの皆様には、通訳としてだけでなく、観光案内や乗客の方々への誘導までご協力いただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

県では、大型外国客船に高知へ寄港してもらうために、船社や旅行会社に向けた誘致活動を進めていますが、誘致活動が実りあるものとなるためには、乗客の方々からの寄港地の評判が最も重要となります。海外からの乗客の方々には言葉の壁を超えて「おもてなし」の心を伝えるには、通訳ボランティアの皆様のご活躍や県民の皆様の協力が不可欠となります。外国客船の寄港時には、今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。



▲初入港した「サン・プリンセス」の乗客で賑わう高知新港



好評だった高知市中心部アーケードでの抹茶の振る舞い



◀高知新港岸壁で、乗客をお出迎えするりょうまくんとカツオ人間

# 韓国全羅南道との観光・文化交流協定 締結10周年記念事業

— 2013 順天湾国際庭園博覧会への出展と訪問 —

高知県国際交流課主査 岡崎 昭子

高知県は、韓国の全羅南道と友好交流を行っています。交流の原点は、「韓国孤児の母」として今なお日韓で敬愛されている田内千鶴子さんです。彼女の功績をご存知の方も多いのではないのでしょうか。

田内千鶴子さんは、韓国で3千人の孤児を育て上げた本県出身の女性です。第2次世界大戦前後の反日感情が高まっていた時代に、いくつもの困難と国籍の違いを乗り越えて、子供たちのために生涯を捧げた彼女は、日本人として初めて大韓民国文化勲章国民賞を授与されました。

高知県と全羅南道は、彼女が日韓の間に築いた尊い友情を大切に守り、2003年には、観光・文化分野での相互交流を行い、両県道民の相互理解と友好関係をさらに発展させることを目指す観光・文化交流協定を締結しています。

そして今年はその10周年にあたる記念の年です。これを機に、両県道の友好の証を形にして残すため、また高知県のことをより多くの方に知っていただくため、ちょうど同じタイミングで全羅南道順天市にて開催される庭園博覧会へ日本庭園を出展いたしました。



枯山水で表現された高知県庭園

韓国初となるこの庭園博覧会は、「地球の庭園」というテーマを掲げ、83作品を展示しています。そして、日本の高知県を含む11か国の作品は、世界庭園として博覧会閉幕後も恒久的に保存されます。

高知県庭園には、本県の特徴や魅力がぎゅっと詰めこまれています。枯山水で鯨の泳ぐ太平洋や生気みなぎる山々などを表現し、両県道の友好の象徴として、田内千鶴子さんにちなんだ梅の木と全羅南道の花である椿を植えました。入り口にはミニサイズのはりまや橋を飾り、さながら小さな高知です。

そして6月1日と2日の土日には、公式イベント「高知の日」が開催され、観光・文化交流協定締結10周年記念訪問のため、前日より渡韓していた尾崎正直高知県知事ほか約80名が、会場に足を運びました。

まず一行が向かったのは、高知県PRブースです。ここでは、パンフレットやポスターで観光情報を発信したほか、土佐和紙ちぎり絵協会の皆様によるちぎり絵体験教室が開催されました。体験内容は、籠に和紙で装飾をほどこすもので、用意していた150個が、すべてなくなる盛況ぶりでした。



両県道知事・県議会議員・「ほにや」の踊り子の記念写真



来場者で賑わう2013順天湾国際庭園博覧会場

次に向かったのは、企画から3年がかりで完成した高知県庭園です。ここでは、造園に携わった高知県造園業協会の方々が、最後の仕上げの意味も兼ねて、庭づくりのデモンストレーションを行っていました。開園から間もない時間帯であるにも関わらず、大変多くのお客様が庭園をご覧になっており、知事はじめ訪問者一同は、皆様のご苦勞とご尽力により、この立派な作品が完成したことに改めて敬意を表しました。庭園内に設置した文旦ジュースとミレービスケットの試食コーナーも好評で、県産品の魅力を多くの方に伝えることができました。

そして11時から、いよいよ野外ステージでのセレモニーです。日韓の国旗がはためく中、高知県知事、全羅南道知事、そして順天市長が、この博覧会や両県道の今後の展望について、それぞれの思いを述べ、友好交流と両県道の発展に一丸となって取り組む決意を新たにしました。

このステージでは、「ほにや」によるよさこい踊りも披露され、伝統的な正調踊り、そして静と動で見事にメリハリをつけた華麗なオリジナルの舞いに、会場からは大きな拍手が送られました。

4月20日に開幕となったこの博覧会は、「高知の日」までの2か月足らずで、予想を大きく上回るおよそ200万人を集客していました。訪問団は、実際にその様子を見て、この出展が、本県のことを世界中の方々に知っていただく貴重な機会となったことに手ごたえを感じました。

博覧会は10月20日(日)までです。閉会後の秋には、全羅南道の関係者の皆様に来高いただき、観光・文化交流協定締結10周年を祝うとともに、さらに交流を深めていきたいと考えています。

高知県では、今後とも、韓国全羅南道をはじめとする海外と地方レベルでの国際交流に積極的に取り組んでまいります。



高知県造園業協会の案内により庭園を視察する尾崎知事と森田県議会議長



高知県と全羅南道の友好関係を記した石碑



世界5大沿岸湿地のひとつでラムサール条約にも登録されている順天湾

詳しい情報はこちらをご覧ください。

**2013順天湾国際庭園博覧会公式ホームページ** <http://jpn.2013expo.or.kr/>

# イギリスで生活して

福岡 千尋(高知市出身)



イギリス人の夫ジョニーと結婚しヨークに住み始めて1年10ヶ月ほど経ちました。来た当初からオーガニック野菜や食品を扱うアリゲーターというお店で働いています。

アリゲーターは地元で40年近くあるお店で、お客さんは物を買うだけでなく、お店の人や他のお客さんと話したりする交流の場所にもなっています。常連のお客さんも多く、働き始めた当初は名前もわからず、会話もままならなかったのですが、最近では私の名前を覚えてくれるお客さんや、覚えようとしてくれるお客さんも多くなり、話も少しずつ弾むようになってきました。また日本食は健康的だということで興味を持っている人も多く日本料理の質問も受けることがあります。そんなお客さんとの会話から、イギリスジョーク(説明してもらおうと面白味が半減しますが)、スラングなど教えてもらえます。(たまに間違えて使って大笑いされますが)

イギリス人は自分でいろいろと作ることが好きだなあと感じますが、ジャムなども季節ごとによく作ります。夏の時期だと近所で採れたベリー類、冬になるとマーマレード作りなどです。ジャムやケーキなどの材料を買っている方に作り方を聞くと快く教えてくれたりもします。

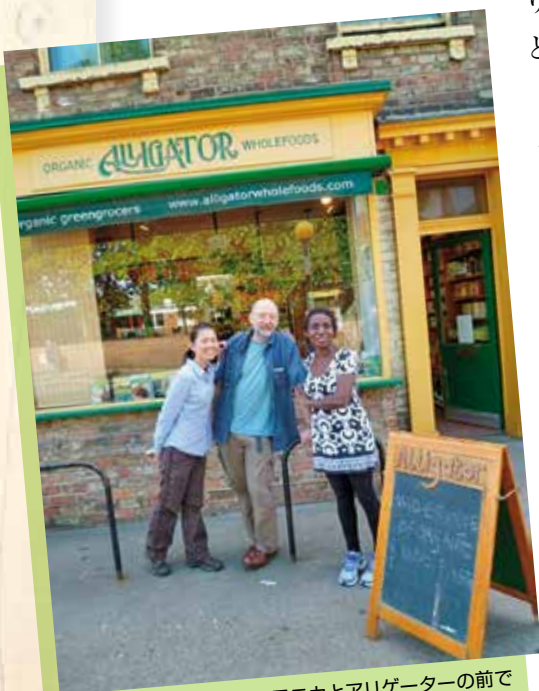
また日本でもイギリス人はガーデニング好きで知られていると思いますが、野菜を育てることも人気で、アロットメント(Allotment)という土地を自治体から借りて野菜を育てる人がたくさんいます。お店のお客さんの間でも、春先になるとそわそわし出して、もう作業を開始したとか、何々の種を植えたとかがもっばらの話題。今年の夏は例年になくいい天気が続くので、野菜もよく育ち、トマト、ズッキーニ、ジャガイモ、ソラマメなどなど収穫の話題で盛り上がります。アロットメントはそれぞれの場所によって特徴があり、コミュニティーができていますのでガーデンパーティーなどの交流も盛んに行われているようです。



▲ アロットメントの様子

お客さんの中にはあえて大きなスーパーに行かずにアリゲーターで買い物をしてくれる人、地元で育ったものや作られたものを率先して購入し、地元の生活は地元の人で支えて行こうという意識の高い人が多く、自分が日本にいる時には出来ていなかったと気づかされました。野菜作りも趣味だけでなく、自分達の生活は自分達で少しでも支えていけたらという考えもあります。

イギリスに来てから、私もジョニーと野菜を育てたり、一緒にキャンプして自然の中に行ったり、地元のお店で働き、地元で採れたものを食べ、地元の人と交流できることで、自分が地域の一部、そして自然の一部であることを実感できるようになってきました。そのような機会を与えてくれる周りの人々に感謝しています。



▲ オーナーと同僚のモニカとアリゲーターの前で

# 新旧高知県国際交流員からのごあいさつ

高知県国際交流員が任期満了により交代しました。新旧国際交流員からのごあいさつをご紹介します。

## 退任あいさつ

4年前、JETプログラムに応募し、派遣先が高知であると書かれた通知を受け取ったとき、私の正直な反応は「えっ、高知ってどこ?!」でした。幼いころから日本語や日本文化について学んでいて、夏休みに日本へ遊びに来たこともたくさんありましたが、「高知」という知らない土地に少し不安を感じました。

しかし、高知で国際交流員として様々な仕事をし、またプライベートでも友達と高知のあらゆる場所やイベントへ行くうちに、高知のことをたくさん学び、どんどん好きになっていきました。出張などで県外へ出ると、「早く高知へ帰りたい」と思うようにもなりました。

私がこんなに高知を好きになったのは、おそらく高知の人が高知をすごく好きだからだと思います。高知で生活するなかでたくさんの人に出会いまし



## リサ ヤスタケ



たが、その多くは高知にすごくプライドを持っていて、高知が好きなんだと話していて伝わってきます。自ら、「高知ラブ」と言う人もいました。

そんな高知を離れることになり本当に名残惜しいですが、これから先は、4年前の私みたいに高知のことを知らない人々に高知のことをもっとPRしていきたいと考えています。その人たちに、私も「高知ラブ」だということが伝わるのではないかと思います。まっことそうながやき。



## 新任あいさつ

Hello Kochi People! 3年前に高知に来ましたマックス ブランチフラワーと申します。この3年間は、大豊町の国際交流員として勤めさせていただきました。す

ごく楽しかったですし、働きながらいろいろ経験をさせてもらいました。土佐についてもいろいろ学びましたし、高知に来てから土佐弁にも興味を持つようになりました。まだまだ勉強中ですが、土佐弁を使いゆうときに「おまん

## マックス ブランチフラワー



ほどのおんちゃんにそんなに教えてもらうが?」って言われると、

僕も高知家の一員として扱われている気がします。「おまんの土佐弁はまっことたりんぜよっ!」…って言われんように、どっさりがんばります。

僕はオーストラリア出身で、オーストラリア弁もやっぱり…って言いたいところですが、オーストラリアの面積は日本の約22倍もあるので、僕の出身のメルボルン周辺のなまりしか分からない(涙)。オーストラリア全体の言葉ですが、G'dayは聞いたことありますか?これはGoodとDayを略してのG'dayで、発音は「ギデイ」、オーストラリア弁のひとつです。

8月からは県庁の国際交流課で勤めさせていただきます。もしどこかで言葉を交わす機会があれば僕の土佐弁を試してみてください。僕の知らない新しい土佐弁も、どんどん教えてください(笑)。



# INFORMATION BOARD

## 新しい国際交流 団体のご紹介

## 須崎国際交流協会

WE ARE SUSAKIJIN! No Boundaries in Our Hearts!  
私たち須崎人! 心に境界線はない!

世界の情報が飛び交い、世界中の人々が行き来する今、地球はボーダーレスになりつつあります。しかし、人々の意識や行動における国際化は、決して順調であるとはいえません。国際交流・国際協力を進展させていく上で、最も重要なことは、日本人のもつ国際意識と外国イメージを変えていくことです。

須崎市は高知市に次いで、在住外国人が多いです。年齢、性別、国籍に関係なく、みんな「須崎人」という名の仲間です。当協会の望みは、近い将来、日本人が外国人を「ガイジン」としてではなく、「隣人」として迎えることができるようになることです。2013年2月2日に設立された当協会では、ポットラックパーティー、インターナショナル・デイ・キャンプ、日本語/英語クラス、通訳、ボランティア活動、外国人生活サポート等を通じて、

お互いの文化を理解し尊重し合える交流の場を提供し「心の国際化」を、また地域の活性化も目指しています。

須崎国際交流協会

Website: [www.susakijin.com](http://www.susakijin.com)

E-mail: [susaki.i.a@gmail.com](mailto:susaki.i.a@gmail.com)



多くの「須崎人」が参加した  
6月のポットラックパーティー



須崎市での外国人留学生サマーキャンプで  
通訳を行いました

## 国際ふれあい広場2013を開催します!

今年も国際協力に関する総合イベント「国際ふれあい広場2013」をJICA四国と共催で下記のとおり開催します。お誘い合わせの上ぜひご来場ください。

- 主催:公益財団法人高知県国際交流協会  
JICA四国(独立行政法人国際協力機構四国支部)
- 日時:10月20日(日) 10:00~17:00  
(※飲食は売切次第終了)
- 会場:ひろめ市場よさこい広場

主な内容:

- ベトナム・モンゴル・中国・韓国料理の販売
- グアテマラ・ラオスの民芸品展示販売会
- JICAボランティア相談会
- 県出身の海外ボランティアの紹介
- 国際協力・国際交流パネル写真展
- その他、アジアの音楽等

★主催団体以外の出展団体紹介(順不同)★

- ①在日本大韓国民団高知県地方本部②高知県青年海外協力隊OB会③コデアルテコを応援する会④特定非営利活動法人Brain⑤高知ISGG善意通訳クラブ⑥高知大学国際茶屋⑦奥村多喜衛協会⑧高知インドネシア友好の会⑨日中友好中国帰国者の会

※各団体の催物内容は当協会HPで確認できます。



◀昨年の様子  
(青年海外協力隊OBによる体験談トーク)

## 世界に目を向けよう! 異文化理解講座開催のご案内

当協会では、高知県国際交流員や主に高知大学留学生を講師に招き、外国の様々な生活様式や習慣などを県民の皆さんに紹介する「異文化理解講座」を年2回(6月と11月)開催しています。異文化に触れるいい機会となっておりますので、ぜひご参加ください。

なお、11月開催の「異文化理解講座」の詳細につきましては当協会HPにてご確認ください。

6月のアメリカ講座の様子▶  
講師の高知県国際交流員リサさん(当時)と  
受講者の皆さんと一緒にフラを踊りました!

